

1989 (毎月1回) (発行)

5月号

(村の面積)
332.60km²

発行 福井県大野郡和泉村

広報

いずみ

(平成元年 5月1日現在)

村の人口	
総人口	905人
男	447人
女	458人
出生	2人
死亡	2人
転入	17人
転出	6人
世帯数	297世帯



みどりをたいせつに

行事お知らせ

第三回九頭竜新緑まつり

- ◇期間 5月20日(土)から6月4日(日)
- ◇行事内容
 - 新緑市場 (山菜や特産品の即売および試食)
 - 5月20日から6月4日までの毎週 土・日曜日
 - JR九頭竜湖駅前
 - 第三回九頭竜山菜大学 (民宿に宿泊して、山菜の基礎知識を学ぶ)
 - 5月27日13時から28日14時まで
 - ※入学金 七千円
 - サンソンでしゃんそん (岸洋子 シャンソンコンサート)
 - 5月28日(日)13時
 - 農林業者トレーニングセンター
 - ※入場無料
 - バーベキュー (国民休養地において、特産品即売やワイン無料試飲を行なう)
 - 5月28日(日)11時から14時まで
 - ※参加料 千二百円
 - のんびりウォーク (魚のつかみどりや炭やき体験など)
 - 6月4日(日)9時より(雨天中止)
 - ※参加料 大人 二千五百円
小人 千五百円

みんなで越美北線を利用しよう

昭和63年度 財政状況

昭和六十三年年度一般会計下半期の予算状況は、三月末における予算総額十八億七千七百二十万円となり当初予算と比較して、二億七千八百二十万円の増（八・五％）となっております。

歳入・歳出の費目別については下記のとおりです。

歳入における特定財源等については五月末日までにすべて収入済となり黒字決算となる見込みであります。

63年度一般会計予算の状況（元年3月末現在）

(歳入)

(単位：千円)

区分	当初予算	補正額	現計予算	収入済額	収入率
(1)村 税	210,746		212,846	210,247	99
(2)地方譲与税	8,100		8,100	8,373	103
(3)利子割交付金	2,000		2,000	1,269	63
(4)自動車取得税交付金	7,000		7,000	9,368	133
(5)地方交付金	610,000	179,225	789,225	809,510	102
(6)交通安全対策特別交付金	10		10		
(7)分担金及び負担金	3,580		3,580	3,411	95
(8)使用料及び手数料	10,206	39	10,245	9,946	97
(9)国庫支出金	84,340	34,570	118,910	11,818	10
(10)県支出金	221,289	2,006	223,295	48,115	21
(11)財産収入	22,005	△ 9,220	12,785	13,522	106
(12)寄付金	10		10		
(13)繰入金	50,000		50,000		
(14)繰越金	10,000	△ 7,191	2,809	2,809	100
(15)諸収入	40,814	14,181	54,995	44,940	82
(16)村債	318,900	62,500	381,400	17,400	4
計	1,599,000	278,209	1,877,209	1,190,728	63

(歳出)

(単位：千円)

区分	当初予算	補正額	現計予算	支出済額	支出率
(1)議会費	35,241	3,523	38,764	36,468	94
(2)総務費	216,116	72,902	289,018	247,403	85
(3)民生費	68,562	△ 2,085	70,647	63,909	90
(4)衛生費	24,678	7,370	32,048	27,354	85
(5)労働費	1,157	△ 466	691	620	90
(6)農林水産業費	448,357	65,771	514,128	333,358	65
(7)商工費	83,619	6,071	89,690	82,870	92
(8)土木費	330,386	86,400	416,786	186,552	45
(9)消防費	72,662	615	73,277	73,277	100
(10)教育費	109,233	22,178	131,411	119,780	91
(11)災害復旧費	2,090		2,090	1,629	78
(12)公債費	201,226	1,200	202,426	197,767	97
(13)諸支出金	10	12,881	12,891	1,301	10
(14)予備費	5,663	△ 2,321	3,342		
計	1,599,000	278,209	1,877,209	1,372,288	73

取扱金融機関 越前信用金庫

担保 無担保

保証人 取扱金融機関の規定による。

方償法選 元金均等月賦償還又は元利金等月賦償還但し、四〇万円以上の場合は一・二を限度に半年賦併用可

利率 三年を超え五年以内 年五・六％

期間 五年以内

限度額 一人一五〇万円以内

下さい。

資金の貸付けを行なっておりますので、必要な方はご利用下さい。

村民の生活安定と福祉向上のため、勤労者及び就業者を対象に次のとおり、生活安定資金の貸付けを行なっておりますので、必要な方はご利用下さい。

村民生活安定資金の利用について



むらおこしの先進地を訪ねて

福井県「名田庄村」「今庄町」「今立町」視察レポート

三島 藤 市

「名田庄村」

去る平成元年三月三十日、三十一日の二日間にわたり、県内「名田庄村」「今庄町」「今立町」の三町村を視察、それぞれの役場において、町づくり・村おこし・その他行政全般についての研修会を開いて頂いた。当村よりの参加者は議員・議会議務局長、それに村長・観光課長と産業課長の総勢十四名。このようにに議会、行政側の合同研修は私には初めてのことであり、計画については議会内部で検討をし、理事者とも充分相談して、決定、実施に踏み切らしていただいたのであります。さて、なぜこうした企画をたて、どうして県内三町村を選んだかは、後で述べさせていただきます。以下現地でご町村の関係者の話から得たことと、資料をもとにして、幾分の私見を交え、報告させていただきます。

三十日朝七時役場前出発、北陸自動車道福井インターより、敦賀を経て、国道二十七号線に入る。噂の通り狭歪な道路と相当量の交通状態は海水浴シーズンでもないのに、車の列は殆んど切れ目がない。小浜市に入ったのが、十一時十分頃、早めの昼食をとり休憩しました。マイクロバスの窮屈な座席での四時間は大変な苦痛であります。全員が元気で安心しました。昼食後十二時過ぎに出発して、南川に添って国道一六二号線に入り山の方向に走ります。この辺から特に目につくことは、各集落の中に草葺き屋根にトタンをかむせた住宅が多いことと、他の住宅はその殆んどがごく最近建てられたと思われる新しい家ばかりであることとに不思議な想いをした。(後に事務局長さんが言われた、最近ようやく生活が安定したから)

走る程に山が近くなり、車も人影もごく少なくなり、やがて十二時三十分頃に名田庄村に着いた。名田庄村との約束の時間は午後一時、まだ早いのでその間、名田庄商会の中心といわれる「あきない館」と「青少年旅行村」「農協名田庄漬工場」を見学し、あらましの説明をきき、役場に入りました。バスが着くのと同時に、女子職員の間までのお出迎えをうけた。案内により会議室に入ると又ここで事務局長さんの出迎えをうけ、すぐにお茶の接待、間もなく下西議長さん・村長さん・企画広報課長さん・名田庄商會営業部長さん・前議長の下中議員さんのご出席であり、心からの歓待を受け強く何かを感じた。

県の最南端にあり、九六%が山林で、かつては農林業以外に産業らしきものはなかった。昭和三十年に四千八百人余の人口も、今は約三千二百人に減少、過疎化・高齢化・後継者不足等全く和泉村と同じで青年は約二百人位いるがほとんど村外就職その三十%は三十才以上で全部独身である。村は深刻な問題を多く抱え、その打開策として昭和五十六年に総合振興計画を立て「人づくり、物づくり」それに「行政主導型から脱却し、民間主導型」と「商會設立」の三本柱で構成され、五十九年に名田庄商會が発足、出資比率は、村が五十五%、残りの四十五%が農協・森林組合・商工会・木材組合が負担し、官民ほぼ半々になっている。社長は村長、役員は収入役と各出資団体が就任している。事業運営資金は、販売利益と村の一般財源でまかなっている。ここで特筆しなければならぬことは、小城営業部長(四十六才)であります。商會の総べてを指導し掌握している方ですが、かつて大手民間電機メーカーの営業の要職にあったのですが、村が説得し「引き抜き」をしてきたとのことです。村長さん議長さん共にその手腕に全幅の信頼と



期待をよせられている。部長さんの全く自信に満ちた話し振りはさすがと思わせる。私達一行は始めての訪問地での研修会でもあり貧欲に何んでも吸収してやろうとの意欲緊張の中、各自のメモするベンの音が聞える。商会の目的はあくまで村の産業附興と村民の就労機会の増大を図ることが、大前提に有り、営利優先を目的とした企業とは性格が違ふと明言する。

特産品の開発品目は、三十一品目に及び、更に「ふる里味の宅配便」で全国に三百人の会員をもっている。特産物の売上げは年間四千万強で赤字が出る。そのため村の一般財源から一千万出している。然しこれは「コンサル料と思えば安いものだ」と小城部長はこともなげに平然とい切る。土地柄は和泉村と全く同じ、然し観光面では雪も少く地理的状况も悪く、中規模青少年旅行村と現在建設中の遺跡郷土資料館、八ヶ峰家族旅行村(六十六年オープン)だけあります。随って、産業面の開発振興を目的とする名田庄商會に大きく期待し、依存する

ことではあるが、「安易に国、県の補助金めあてだけの事業の取組みでは、いつになっても「百村一品」の産業構造からの脱皮はできず、本物の特産品が生まれぬ」との声もある。同僚議員の質問の続く中、約束の時間がきた(午後三時)残念だが閉会の挨拶をしなければならぬ、心温まる対応に感謝し今後の御活躍を祈りながら名田庄村を去る。

変革の激しい時代潮流の中で名田庄村も大きな財源と労力を必要とする、地方サバイバル競争に勝ち抜き希望ある新時代を生みだす陣痛はまだ



続くと思われる。お互いに同じ苦しみをもつ者同志、更に両村の交流を深めてゆきたいとおもふ。

名田庄村を午後三時十分出発する議長さん局長さん方がわざわざ玄關まで見送りをしていただき恐縮する。

今晚の宿泊地は翌日の研修地(今庄・今立)に最も都合の良い河野村糠(ここのも過疎指定村)の、はまや旅館。名田庄村を出てから三時間、午後六時到着、今日一日で七時間走った。国道一六二号線を挟み旅館と海という、海岸の岩壁にへばりつく様に建てられた旅館である。六時三十分

夕食、九時三十分床につく、同室の村長は一足早くもうねむりについている。疲れたのだろう、静かなね息をたてている。夜に入ると車は殆んど通らない静かである。窓から見ると、街燈の淡い光の中に、小さな漁船が十二、三艘、船先を道路に向けならんでいる。何故か漁船の陰がやけに長く闇をつくっている。風いだ海の潮騒いの引きずるような音が心地よく、時々カン高いカモメの鳴声がかきこえる。床に入っても今日の名田庄村のこと、和泉村のことが交錯してねむれず、又研修会のメモをよみかえす。

翌朝(三十一日)八時四十分宿を出発。次の訪問地(今庄町)に向う。約束時間は十時である。約一時間程走り、今庄町役場前に着く。ここでも女子職員の笑顔での出迎えをうける。そして会議場までの案内をうける。とても親切だ。反省のおもいしきりである。川西議長さんの出迎である。会議室に入る。お茶と名

「今庄町」

産の「柿洋かん」がでる。赤星町長さん、産業企画課長さん、事務局長さんの丁寧なるねぎらいのご挨拶と今庄町の概要について町長、議長さんの説明をいただく。

町の面積は、二四一・六七km²で全面積の九四・二%が山林である。ここも「過疎指定町村」である。かつては、越前・加賀両藩の宿場本陣があり、幕府参勤の往来で栄えた。その頃より「そば」は名物として親まれてきた。その後国鉄の駅機関区として、通過する全車両三十分停車し「そば」は国鉄職員、乗客に提供してきた。長い伝統をもっている。そんな中で今庄町は、昭和六十一年十月、モデル事業、農村環境改善センターを建設「そば道場」として開設し、「見る」観光から体験する「する観光」ということで、自分で作り食べる体験観光として、楽しんでもらおうとするものであり、別命「今庄そば屋敷」ともいう。昭和六十三年のそばの作付は六十町歩、収穫は一反一俵半とするが目標にとどかない。総収穫四五〇俵、然し水田でのそば栽培は不適

翌朝(三十一日)八時四十分宿を出発。次の訪問地(今庄町)に向う。約束時間は十時である。約一時間程走り、今庄町役場前に着く。ここでも女子職員の笑顔での出迎えをうける。そして会議場までの案内をうける。とても親切だ。反省のおもいしきりである。川西議長さんの出迎である。会議室に入る。お茶と名

当ですとのこと。減反の特産物生産は不発である。

生産者価格は一俵(四十五K)一万五千円、それに町五千円、農協五千円の補助で二万五千円となる。現状ではその自給自足体制はできない。然し今庄町も伝統ある特産品そばを中心に振興を計り相乗効果を他の施設に連動させようとするものであり、名田庄村の「漬け物」と同じである。平成元年四月十一日木造道場が更にオープンする。続いて農協の「そば」柿の加工施設も四月中にオープンする。

更に四百五十年の歴史をもつ伝統特産品として「つるし柿」は六十三年の生産量八億個、収穫可能な柿の木は約五千本、特に十年來にわたる研究の結果「かき洋かん」を商品化した農林省の最優秀賞を受ける。以上伝統ある「そば」「柿」の生産加工の中における、婦人、老人等の余剰労働力を活用し「一村逸品一億円」のブランド化を目標にしている。又通年型観光の確得を目指して、今庄シーサイド・ハイランド整備事業が国の採択を受け、鉢伏山(標高七六〇米)周辺

のスキー場、ならびに通年型リゾート基地として開発されることになった。全面積三五〇ヘクタール、第一期工事、二十八億五千万円、第二期工事、四億、計三十二億余円の事業、和泉村近江鉄道の和泉スキー場の総事業費とほぼ同額であるが、今庄町は総べて町営でやることである。その他、観光施設としてサイクリングターミナル(貸自転車一六〇台、宿泊収容人員一〇人)青少年旅行村、広野ダム又有名な伝統芸能、羽根曾踊り等がある。

以上の説明を受け、私達の質問の後「そば道場」に案内された。丁度十二時である。昼食はそばということ、道場の二階広間に打ちたてのそばをいただく、やはり本物という感じ、余りの美味に観声を上げる同僚もいる。赤星村長さん、川西議長さんが自ら一生懸命に接待して下さいる姿に感銘をする。

平日ではあったが、其の間道場をおとずれる客はだれもない。午後一時出発の時間である。私達がバスに乗り発車するま

で風の強い寒い中、赤星町長さん、川西議長さんが手を振ってお見送りいただき、心温まるおもいで一杯だった。今庄町も二十五才以上、三十才の青年五百三十人内二百人余が未婚者、嫁不足はこも同じで最大のなやみとのことである。住民の方が素朴で人情味豊かな感じを強くうけた。

「今立町」

赤星村長さんの「特産品とは金ではかえないもの」との言葉が心に残る。しつかりかみしめなければ……。

本場今庄そばの味を心に残しながら今庄を発つ。最後の訪問地今立町に入る。町の様子がちがう。人の動きも活発だ。各商店の構えも気のせい

か、近代感覚が生きている。午後二時、約束時間に役場前に着く。まっていたかの様に玄関に女子職員の出迎え、面映い様な気がする。然しどこでも外来者に対する気くばりは大変なものである。案内され会議室に入る。議会事務局長さんの出迎えを受ける。

気のせいか会議室が広々ととても重厚な感じに他になかった緊張が体をかたくさせる。間もなく、若泉町長さん、高橋議長さんが室の下手から入ってこられた。にこやかにねぎらいのご挨拶があった。私は二回お相いしたことがある町長さんであるが、一段と大きさを感し、眼鏡の奥の大きな目がとても鋭るとく体中に闘志がみなぎっている。若さ(四十三才)のせいもあるが、とてもスマートである。やがて、町長さん、議長さんを中心に総務課長さん、商工観光課長さん、課長補佐の方とずらり席につかれた。お心配りに改めて感謝する。

人と横ばいである。財政力は、町税収入で見ると、名田庄村六・九%、今庄町十三・三%にくらべ群をぬく二八・八%で財政力指数も〇・五〇七と高い数値を示している。産業の推移は、昭和三十年頃より、第一次産業が極度に衰え、第二次産業が全産業の約六〇%に及び織物・眼鏡・和紙・建設業が中心である。町長さんの設得力のある話が続く、その中味は四月十五日から五月五日まで開かれる「第九回現代美術今立紙展89」の話である。

越前和紙の里の「町おこし」にかける情熱が全国でも珍しい文化の町づくりを着実に定着させている。同時に今回は和紙の歴史・文化・未来を紹介する「いまだて31委員会」主催に合わせて行なわれる。特に今回の応募は既に国内から三百七十九点、外国から二十点余の出品があり国際的過去最高とのこと。特にその発想の「キバツ」さはこの今立展の財源を共通入場券「町札」一枚五千円の発行によりまかなう。大蔵省に特別にデザイン印刷したもの、今立和

私と村長の訪問の挨拶のあと、若泉町長さんの町づくり概況説明であるとても話題の豊富な方だ、話し振りが俗っぽくいえば板についていて、自信の程がうかがえる雄弁である。県下一の、今とんでいる町の町長さんだ。

今立町は総面積四五・〇八km²、うち森林三一・二九km²で、森林は約七〇%を占める。名田庄・今庄と比べ平野部がやや多い。人口は一万四千八百

紙で作りその数は限定二万枚で現在九五%売れたとのことであります。限定されたもので二度とできないからと丸岡の議長さんが七千円で求めたとの笑話もうまくおりこんでくる。そして、和泉村のみなさんには残してありますからお帰りにはどうぞーといわれついに議員全員(十枚)買うはめになった。実に巧妙である。

もう一つのアイデアを紹介しよう。私達がとすれば、架空の存在と思う、佐々木小次郎(長剣の剣豪)の生誕の地が、今立町服間地区水間谷であるとの史実があるといふこの集落に高さ台共六米位の小次郎の銅像をたてたという周辺を公園化して客を集めるという。驚きである。又和紙の里会館から、パヒリス館を結ぶコミュニティ道路、二つの施設の「説明者」の軽妙な話し振りはそのまま落語の高座に上げて通用しそうな感じであり、ここにも若泉町長の教育の成果を見たおもしろいである。ただ説明者の視線が下を向いたままで一寸と気になる。コミュニティ道路の横に幾つ



かの座れば音楽の流れる陶板の腰かけがある。まさに「夢の道」である。

汗をかきながら現場の説明に一生懸命の町長さん、その後ピツタリと町長専用車がついてくる、とにかくいそがしき人である。時間の余裕などない。私達の案内を終えるとあの豪快な態度がコロリと変わり極めて慇懃なお別れの挨拶である。行政マンでなく民間猛烈営業マン的人物を見せつけられたおもしろいである。さつと専用車に乗りどこともなく消え去った。私は今気がついていたが、研修報告を書いている私がいつのまにか、「今立展」の宣伝を一生懸命に書いていくことに気がつく。若泉町長

さんの熱気がのりうつった様である。今立町の基本的方針に「六造り」を定めている。これは、一、人づくり 二、健康づくり 三、集落づくり 四、観光処点づくり 五、産業づくり 六、福祉づくり

以上である。ここでも人づくりを重点目標にしている。まだまだ報告することは沢山ありますがこの辺で今回は終ります。僅かな時間の若泉町長さんのおつき合いであるからとおもうが、とにかくなんとも魅力的な方である。最後に質問した、大きな観光的施設をいくつか作られるが、地域の経済効果を上げるためには、宿泊帯在型が常道だが、宿泊はどうなのかと質

問した。返事は簡単明瞭、私の所は通過観光で結構です。泊りは芦原にでも宿ってもらえばいい。そんなことでなく、より多くの人を今立に集め、伝統産業の和紙が世界の和紙としての高い評価をいただき、産業そのものが大きく飛躍することが目的である。とにかく伝統和紙を基準に総べての施設にうまく連動させようとの考えは「今庄」も「名田庄」も同じである。学ぶべき要点である。

【結び】

悪戦苦闘しながらの原稿・想いを過去に走らせる。エネルギー開発という国策に添い、村の半分以上を失って以来、二十三年そのときから村の将来に危機感を抱き緊張した日々を過してきた。それなりに先人達も努力を重ねてきた。この二十三年來のいい様のない焦燥は一体どう解釈したらよいのでしょうか。今回の研修を実行するに当り、この様なとき他に「村おこし」の方策を求めるとは、邪道なのか背を向けることになるのか大きな迷いがあった。で

も研修を終えた今は、各地で様々な人情にふれ心なごむ思いである。和泉村が今、民間による特産品開発も育ってきた。イベント創造で活躍中の若手リーダーや、各経済団体の現場で頑張る若手職員のみなさんが、見聞を広め、広い視野の中で活躍するのに役立ちたい。そして今回理事者と議会、若い関係課長と行政を効率的にもちたいと多少の子備知識をもちながら、現実に各町村に足をふみ入れ、生々しい現場の話を書き、感動もあり、そして多くの勉強をし知識という「無形」の財産を得させていただいたことに感謝しております。これは私達議会人の共通の気持であり、必ず役立つことがあると信じます。かつての北海道池田町の九谷氏は「一村一品運動は単に物を作るといふことではなく、それは新しい「ノウハウ」の開発であり、人間作りが先行しなくてはならない」と言う。二日間の研修を実施させていただきましたこと重ねて感謝申し上げます。私の研修報告を終ります。

北海道姥神神社の 青葉の笛との比較

現在、青葉の笛は全国で六ヶ所残されていますが、その中で当村の笛は日本最古の青葉の笛であると言ふことはすでに調査済みですが、先月笛研究家の美濃晋平先生より当

姥神神社の青葉の笛

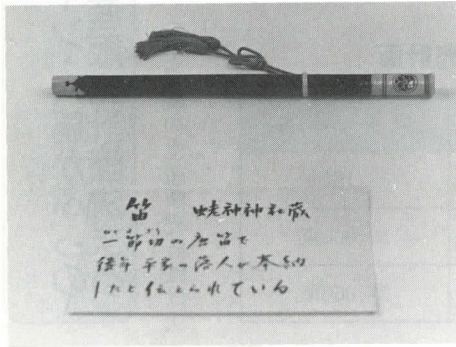
笛研究家 美濃 晋平氏

私は今から十年位前「青葉の笛」が日本に複数存在することに興味を持ち姥神神社の宮司藤枝氏に問い合せ、同社

に伝わる資料と写真の提供を受けた。今回は全国で六管残されている青葉の笛の中で北海道姥神神社の社宝である青葉の笛について述べます。

一の谷の戦(一一八四年)で、平敦盛が所持していたとされる青葉の笛が現在江差町の姥神神社に保存されている(写真参照)この笛は長さ三十八センチメートル、直径二・五センチメートルの黒漆塗りで両端に骨製の飾りがはめ込まれている。歌口(吹口)側には平家の家紋の梅鉢が彫

り込まれ中央部から歌口より房が付けれられている。同社に伝わる文献によればこの笛が同社に伝わった経緯については「平敦盛の遺品である青葉の笛は当時の武家の習いとして平家へ返却された。



(姥神神社提供)

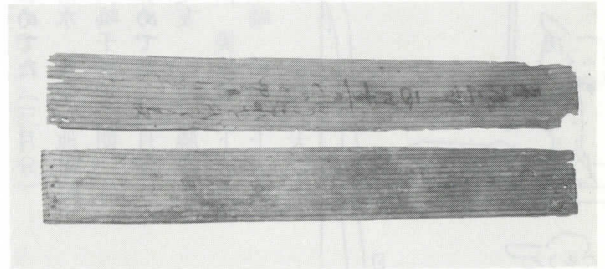
青葉の笛の年表

- 662年 (天智天皇)…(台明寺)…青葉の笛(彫刻)
- 750?年 正倉院の笛 竹笛2管
- 800年頃 清水の笛
- 1040年* 台明寺古文書
- 1159年* 台明寺青葉竹の記事
- 1159年 **源の義平の笛** ———— **青葉の笛** (福井)
- 1160年* 台明寺青葉笛の記事 ———— 須磨寺 (神戸)
- 1184年 **源平の戦(一の谷)敦盛の笛** ———— **赤間神宮** (山口)
- **姥神神社** (北海道)
- 1202年* 台明寺笛竹使の記事
- 1200年~1250年 平家物語の敦盛の笛は青葉の笛でなく小枝笛
- 1225年* 台明寺の青葉の笛竹がかれる。
- 1264年~1274年 吾妻鏡に敦盛の名
- 1334年* 台明寺笛竹の記事 妙音に樂の**青葉の笛**
- 1363年~1443年 謡曲敦盛→小枝→青葉の笛
小敦盛
生田敦盛
- 1801年 赤間神宮へ台明寺より 島津義弘の**青葉の笛**
青葉の笛奉納

* 台明寺古文書

笛研究家 美濃晋平氏提供

源平の戦に敗れた平家の残党の一部は九州の五木の里に逃れ住みこの笛は約六百年間平家の落人により守り伝えられた。平家の末孫であった市木氏(一木を意味し平を逆にしたのが一木で、平を隠しつつも平姓を伝えたと言われる)が北海道の開拓使長官、黒田清隆の招きで北海道に渡った。その際青葉の笛を携え江差に移り住んだ。この市木氏は神徒で姥神大神宮社司の十四代藤枝氏と親交があり、これを奉納した」とされている。今も社宝として神社内に展示されている。



○平治二年正月二十一日より、これを代々うちの神といわいてまつるべし。

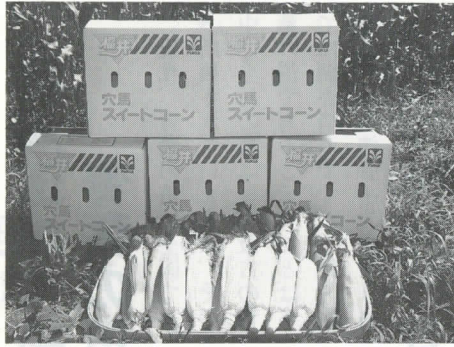
○御旗は熊野の社に納まらせ給う。これも義平の御旗子孫うちの神とつかう申すべし。

○朝日山○○山神
朝日の先祖悪源太義平の御
笛末代の子孫に於いてうち
の神たるべし。

平成元年度 穴馬スイートコーン・穴馬かぶらの 生産販売計画決まる

和泉村特産物生産組合では、平成元年度特産物の生産販売計画を設定しました。

昭和六十三年度の生産販売実績より、穴馬スイートコーンは、作付面積三五〇アールで出荷面積一六五アール総出荷数量三万五千七百七十三本で九割は県内の市場へ出荷し消費者の要望に答えられない現状でした。また、穴馬カブらは、作付面積一五〇アールで出荷面積一一八アール総出荷数量二万七千束で半分は県内の市場へ出荷されましたが農協の歳暮ギフトが好評のた



元年度生産販売計画

	穴馬スイートコーン	穴馬かぶら
生産面積	500 a	150 a
総生産量	100,000本	30,000束
総出荷量	80,000本	27,000束

め本年産の生産販売計画は次のとおりです。

国民年金のまじ

保険料の免除制度

国民年金の保険料を納めることになっている第一被保険者（農漁業従事者・自営業者等）については、障害年金を受けている場合や、所得が無いなど、納めることが困難な場合に、保険料を免除する制度が設けられています。

○法定免除

障害年金を受けている場合や、生活保護法による生活扶助を受けている場合に届出をすることにより、保険料が免除されます。

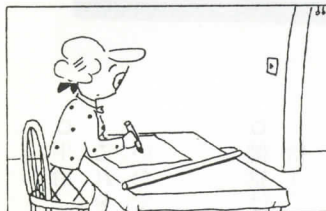
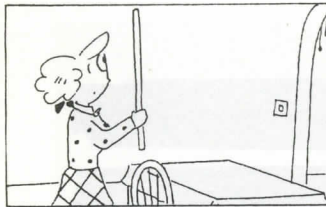
○申請免除

世帯に所得が無いときや、災害にあったときなど、被保険料を納めることが著しく困難な場合に、申請し承認されることにより保険料が免除されます。

この場合、高額な生命保険料を支払っていたり、土地や家屋などの不動産を購入し、高額な借金を返済している場合には、保険料を納めることができるものとして、保険料の免除は承認されることがあります。

また、申請免除は、本人の届出された月の前月から免除されますので保険料がどうし

君 西村宗



ても納められないときは、未納のまま放置しないで、すみやかに役場に届出ください。詳しいことについては、役場住民課へご相談ください。

国税専門官募集

◆受験資格

昭和37年4月2日～昭和43年4月1日生まれの人
試験の程度 大学卒業程度
◆受付期間
5月16日(火)～5月24日(水)

人のうごき(敬称略) 三・四月届出分

- ▲おめでた(三月分)
清水 真盛(池田町)
大鳴千賀子(朝日)
- ▲おめでた(四月分)
定友 隆(勝山)
西美佐枝(下山)
尾崎 治和(上大納)
興 幸美(大野市)

◆試験日

第一次試験：
7月8日(土)・9日(日)
第二次試験
9月11日(月)～13日(水)

◆試験地 金沢市

◆問い合わせ先は大野税務署

〒910 大野市城町七番二十八号
電話 六六一二一八〇番

▲あかちゃん

名前 保護者 続柄 住所
井南 知佳 勝 三女 朝日
泉 紘一郎 正和 長男 朝日



智加ちゃん 紘一郎ちゃん



▲おくやみ

名前 年齢 住所
谷 英太郎 82才 下山
村上 ちよ 85才 下山